

# 胃のピロリ菌

— 医療講演から —

②



国立中央病院消化器科 医長 高崎 元宏

## 再発防止に除菌が重要

注目を集めています。その細菌は「ヘリコバクター・ピロリ菌」(ピロリ菌)。「胃潰瘍患者の七割が感染しています。」この菌は、胃にいろいろな悪影響を及ぼします。中でも、胃の粘液を減らすことや、直接粘膜を傷つけることが、胃潰瘍の大きな原因になります。

さらに、これらの作用のため一度完治しても、およそ七〜八割が再発を繰り返してしまいます。治療の際にきちんと除菌をすれば、再発率は約一割程度に減少します。

また、ピロリ菌は、十二指腸潰瘍の九割、胃がんや悪性リンパ腫(しゅ)の半数の患者も感染。WHO(世界保健機関)の国際がん研究機関

「胃潰瘍で手術した」という人が多いですが、現在では投薬で治りきらないときや潰瘍が破れた場合などに、非常に減っています。

ところが、現在の胃潰瘍治療には、再発防止に大切なピロリ菌除去が、「慢性胃炎で自覚症状が強い」ときと「胃潰瘍の再発を繰り返す」場合を除いて、基本的に含まれていません。確実な治療法と安全性が確立されていないため、除菌が保険適用になっていないからです。

一口に胃の病気といっても、良性の胃潰瘍(かいう)や胃下垂、悪性では日本人の死亡原因の多くを占める胃がんなど、いろいろな病態があります。その中で、多く見られる胃潰瘍を中心に話を進めていきたいと思います。

### 攻撃・防御バランス

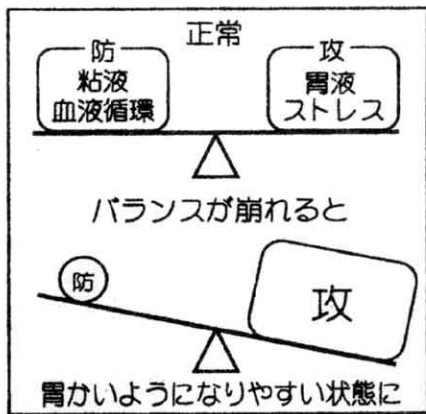
胃という臓器は、消化の通り、胃液を出して食物を消化しています。健康なときは、粘液や血液の循環などの、防御因子と、胃酸や胆汁(たんじゅう)、精神的ストレスなどの、攻撃因子がバランスを取っている状態です。

ところが、いったんこれが崩れて攻撃因子が増えると、胃潰瘍になりやすい状態になります。自

## 胃潰瘍とピロリ菌

分の胃まで消化し、胃壁に浅い傷ができた場合を胃びらん、割合深い傷になったものを胃潰瘍といっています。胃潰瘍になると胸焼けや胃痛、酸っぱいゲップなどの症状がみられ、重症になると黄血や吐血、下血などを伴うようになります。

胃の天敵「ピロリ菌」近年、この胃潰瘍の主要原因となっている細菌が



ります。感染経路は水を介した経口感染とみられています。

除菌は保険対象外

胃潰瘍の治療は、「H2ブロッカー」や「プロトンポンプ・インヒビター」などの投薬で攻撃因子(特に胃酸)を減らすやり方に、胃粘膜保護剤で防御因子を増やす方法を併用する場合があります。六十一〜七十代では

アメリカでは、ピロリ菌感染が判明している胃潰瘍患者に対しては、初診時から除去を行うようですが、日本でも研究が進められていて、数年後には保険適用となりそうです。それまでは、アルコールや喫煙、痛み止めなどの薬に注意して、「胃に優しい生活」を心掛けましょう。

(随時掲載)